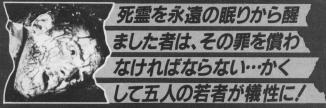


J・マーカティ(恐怖映画研究家)によって名付けられた一連の血まみれ映画を〈スプラッタ・ムービー〉と呼ぶが、この「死霊のはらわた」こそ、まさにその真骨頂といえる。「悪魔のいけにえ」「ゾンビ」「エクソシスト」「キャリー」「13日の金曜日」等々の出血多量ムービーの全要素をかけ合わせてもまだ足りない迫力で迫り来る。首は飛ぶ、腕はちぎれる、眼球は潰れる、どてっ腹からは血の逆噴射!といった、凄まじい血まみれ残酷恐怖ムービーの出現なのである。現に、あの稀代の天才ホラー作家、スティーブン・キング先生をして「これは今迄作られたうち最も残忍なホラー・フィルムである」。といわしめているのだ。

我が国でも〝血まみれ同好会〞諸氏に、熱狂的に待望されているこの映画、 まさに世紀末の衝撃作なのである。



五人の休暇中の学生が知らず知らずのうちに、森の廃屋の地下に眠っている 死霊を古代の眠りから甦らせてしまう。次々に死霊にのり移られ、見るもおぞましい醜悪なゾンビとなって生存者に襲いかかる。死霊にひとたび取り憑かれた者は、手、足、胴体をバラバラに切断されない限り何度でも生きかえるのだ。 5人の仲間による残忍な血の儀式が始まった。果たして、生き残る者はいるのか!?そして、死霊は……!!

細切れにされてもなおヒクヒクと蠢めく肉片、叩き潰される指、えぐられる 眼球、そしてサクサクとヌメヌメと朽ち果てていくゾンビの腐敗した体。血ま みれの闘いに、終止符はうたれるのか!?全米を異常震撼させた残忍ホラーNo.1 ムービー。



83年度米・ファンゴリア誌選出恐怖映画第1位受賞

アメリカで最も入気のあるホラー・マガジン『ファンゴリア』誌では、毎年ファンの選ぶ恐怖映画ベスト・テンを選出するのだが、83年度ベスト・テンに於いて、

「クリスティーン」「サイコ2」といったメジャーなホラー映画を抜いて堂々第一位を獲得するという栄光に輝いている。更に、同誌ベストテン監督部門に於いては、この「死霊のはらわた」がデビュー作の若干23歳の新星サム・ライミがジョン・カーペンターに次いで第3位を、また特殊メイク部門でもトム・サリバンが「ゾンビ」「13日の金曜日」で知られるトム・サビーニを押さえて第3位入賞をと奇跡のベスト5入りを遂げているのである。

世界中のスプラッタ・ムービー・ファンを湧かせたこの衝撃作は、パリで行われる第12回パリ国際SFファンタスティック映画祭の審査員特別賞及び観客賞を受賞している。

サム・ライミ監督作品 〈カラー作品〉アメリカ映画 日本ヘラルド映画



